

第80回 全国学校歯科保健研究大会

第80回全国学校歯科保健研究大会は、平成28年11月16、17日東京都文京シビックホールにおいて「『生き抜く力』をはぐくむ歯・口の健康づくりの展開を目指して」を主題に、「明るい笑顔で未来を作る学校歯科保健活動」副題として、急激に変化する社会環境の中で未来に向かう子供たちが喜びを持って健康な「笑顔」を持ち続けられること、そして学校歯科保健活動が一般社会により広く認知され、児童生徒の健康保持増進にさらに深く寄与していくことを目指して開催された。12時30分より大会記念イベントとして今話題の女流書家 金澤翔子氏による揮毫が披露され「笑」の書道、感銘的であった。

1日目

11月16日(水)

開会式・表彰式

13時より開会式の開会宣言が（一社）東京都学校歯科医会 小嶋憲副会長の辞で開始、次に国歌斉唱に続き、主催者を代表して松野博一文部科学大臣（代理）、（一社）日本学校歯科医会 丸山進一郎会長、（一社）東京都学校歯科医会 川本強会長、東京都教育委員会 中井敬三教育長より挨拶があった。祝辞を塩崎恭久厚生労働大臣（代理）、（公財）日本学校保健会 横倉義武会長、（公社）日本歯科医師会 堀憲郎会長、（公社）東京都歯科医師会 高橋哲夫会長より頂き、その後来賓並びに主催者が紹介された。



表彰式に移り、丸山進一郎会長より前回開催地代表の（一社）長野県歯科医師会 春日司郎会長に対し感謝状が贈呈された。引き続き第55回全日本歯科保健優良校表彰

に移り、松野博一文部科学大臣（代理）より文部科学大臣賞（7校）、丸山進一郎会長より日本学校歯科医會会長賞（8校）、堀憲郎会長より日本歯科医師會会長賞（10校）、丸山進一郎会長より奨励賞（104校・園）が授与された。引き続き第80回全国学校歯科保健研究大会記念文部科学大臣賞（175名）が松野博一文部科学大臣（代理）、より授与された。受賞者を代表として東京都台東区立富士小学校 金子雅彦校長より謝辞が述べられた。祝電が披露されたのち（一社）東京都学校歯科医會 末高英世副会長の閉会の辞で終わった。



記念講演

14時15分からジャーナリスト 池上彰氏による「国際社会で生き抜く力」のタイトルで行われた。ジャストタイムリーで次期米国大統領選挙の取材ではヒラリー候補に対するワシントン政治のマンネリズム・格差社会への憤り等の不満があり、トランプ政策の人種差別化や低所得者層への対応等から勝利はありえなかった今回の勝利、そして今後の新たな施策が勝利の要因ではないか、また歴史的から共和党と民主党との交互の繰返しと述べられ、今後トランプ現象から欧州にも大きな影響がありそうな、希望的観測等が含まれた話は我々を魅了し、固唾をのみながら拝聴した。

シンポジウム

15時30分より東京医科歯科大学 黒田敬之名誉教授の座長のもと基調講演「学校歯科保健活動の過去・現在・未来」をテーマに明海大学 安井利一学長が、シンポジストとして元福岡県春日市立須玖小学校 田中さえ子養護教諭が「子供たちの未来を築く健康教育の展開」として、（一社）日本学校歯科医會 竹内純子常務理事が「学校歯科医として取り組む健康教育」を語り17時30分まで行われた。

演者の安井利一明海大学学長は、学校歯科保健の歴史と「歯・口の健康づくり」を紐解き、子供たちの健康づくりは、他律的健康づくりから自律的健康づくりの転換期が学童期であり、生涯にわたる健康を獲得するためには、自己健康管理能力を育成する時期は、学童期が最適で、それが学力の基礎となると述べられた。また田中さえ子氏は、子供たちには幼児期の健康教育推進が不可欠であり、幼児教育と小学校教育の連携、子供たちとの交流が必要で「発達段階を考慮し心情に迫る取組・連携、協働での取組」の展開が学校歯科保健を取り巻く課題解決への戦略となると発表された。竹内純子氏は、歯・口の健康づくりは、食と咀嚼の健康教育と五感を育む学校歯科保健と健康相談・保健指導が大切であることと、沼津市立長井崎中学校での取り組み成果を披露し、今後歯科医の育成を目指して日本学校歯科医會が再起動することこそ未来の戦略へとつながると述べた。



懇親会

午後7時から第80回全国学校歯科保健研究大会懇親会は、ホテルニューオータニ(鶴の間)で約500人強の参加にて開催された。オープニングセレモニーには雅楽奏者



東儀秀樹氏によるトーク・演奏で幕が開き、池上彰氏も参加し楽しいスピーチで、約2時間和やかなひと時を過ごした。

ポスター発表

地下1階の二つの会場において、34のポスター発表ならびに第55回全日本学校歯科保健優良校表彰優秀賞の7校の発表が展示された。



2日目

11月17日(木)

領域別研究協議会 (10:00~11:30)

■保育所(園)・幼稚園部会

座長(木本茂成教授)「子どもの食の問題歯科医師としての関わり」、1) 幼稚園における学校歯科保健活動の取り組みについて、2) 子どもの心をゆさぶり、実践へつなげる「歯・口の健康づくり」～みたい! ききたい! やりたい!～

■小学校部会

座長(朝田芳信教授)「小児歯科から見た学校歯科保健の重要性」、1) 歯科保健活動から取り組む健康づくり、2) 健康なからだは 健康な歯から～児童からの健康発信～

■中学校部会

座長(前野正夫学部長)「歯・口の健康づくりに関する中学校の取組みと生徒の意識について ～思春期の学校歯科保健推進委員会報告書から～」、1) 自ら「歯と口の健康」を守る意識改革 ～生徒参加型の歯科講話と歯みがき習慣を通して～、2) 目指せ! 歯の甲子園・日本一 ～小学校部門「文部科学大臣賞」から3年。中学校部門「文部科学大臣賞」を再び受賞した生徒たちの歩み～

平成二十八年十一月十七日
第八十回全国学校歯科保健研究大会

われわれは記念すべき第八十回全国学校歯科保健研究大会に際して「生き抜く力を育む歯口の健康づくりを目指して」を主題として、これから五年間継続協議していく。今年度は、「明るい笑顔で未来をつくる学校歯科保健活動」を副題に研究協議を深めた。本研究大会の根幹は多年の研究成果を踏まえ「自律的な健康行動ができる児童生徒の育成」である。

今般東京都で開催された本研究大会の参加者、日本学校歯科医会加盟団体、学校ならびに設置者等は、その成果を生かし、次代の日本を担う児童生徒等の心豊かでたくましい成長を願い、いっそう努力することを誓い、ここに宣言する。

大会宣言

■高等学校部会

座長(福田雅臣教授)「高等学校における歯科保健活動のあり方を考える」、1) 多角的なアプローチによる歯科保健活動、2) 自らの健康課題に気づき、生涯にわたる健康づくりの視点で行動できる生徒の育成 ～高校生の歯と口の健康実態に基づいた歯科保健活動の取り組み～



■特別支援教育部会

座長(弘中祥司教授)「食べる機能の発達における特別支援教育の役割」、1) 生き抜く力を育む 小中高一貫した健康教育の推進 ～歯・口の健康づくりを通じて～、2) 本校における歯科保健の取り組みについて ～学校と家庭及び地域との連携を通して～

領域別研究協議会報告

11時50分より領域別研究協議会報告が(一社)東京都学校歯科医会 川本強会長の司会進行のもと、各領域別研究協議会座長による報告が12時30分まで行われた。続いて大会宣言案朗読・提出が(一社)日本学校歯科医会 藤居正博専務理事より(一社)日本学校歯科医会 丸山進一郎会長・(一社)東京都学校歯科医会 川本強会長に手渡された。



閉会式

12時30分より閉会式に移り次期開催地決定報告を(一社)日本学校歯科医会 丸山進一郎会長より述べられ、学校歯科医の鐘引き継ぎを丸山進一郎会長・川本強会長・(一社)青森県歯科医師会 山口勝弘会長のあいだで行われた。次期開催地紹介DVDが流され、次期開催地代表として山口勝弘会長が挨拶をされた。最後に(一社)東京都学校歯科医会 小嶋憲副会長の閉会宣言で閉じた。

(広報委員会 委員長 草柳英二)



■小学校部会に参加して

第80回全国学校歯科保健研究大会2日目(11月17日)に開催された領域別研究協議会 小学校部会は、(一社)日本学校歯科医会 丸山進一郎会長の挨拶の後、座長の鶴見大学歯学部小児歯科学講座 朝田芳信教授と研究発表者の東京都台東区立東浅草小学校学校歯科医 久保和彦・養護教諭 菊池えり子、埼玉県羽生市立羽生南小学校保健主事 田沼正子・養護教諭 清水紀歩が紹介された。

まず、鶴見大学歯学部小児歯科学講座 朝田芳信教授の「小児歯科から見た学校歯科保健の重要性」と題した講演が行われ、健康教育の実践の必要性が強調され、学童期における歯科保健教育を通じ、疾病予防の概念の定着を目指し、他律的健康管理から自律的健康管理への推進が可能になるとのまとめであった。研究発表者の東京都台東区立東浅草小学校学校歯科医 久保和彦・養護教諭 菊池えり子より「歯科保健活動から取り組む健康づくり」について、歯・口の健康づくりの実践から学校活動での指導、家庭・関連機関との連携の重要性と成果と課題・対策を述べられた。

続いて、埼玉県羽生市立羽生南小学校保健主事 田沼正子・養護教諭 清水紀歩から、「健康な体は健康な歯から・児童からの健康発信」の研究発表がなされた。歯科保健の構想から保健管理・保健教育・組織活動の分野で幾多の方法手段を解説し、自分の歯は自分で守るという実践の態度を育て生涯にわたる歯と口の健康づくりにつながる支援を続けたいと述べられた。

座長のまとめとして、健康でいる大切さ・多くの方向で健康観をたかめる・健康の体は健康な歯から・健診を行うことは健康報告を切り離し楽しく興味をもたせること・成長の激しい時期であり、心の変更に伴うため最適な時期でもある等の総括と講評を、質疑応答の後、午前11時30分に協議会は終了した。

(広報委員会 委員長 草柳英二)

■中学校部会に参加して

中学校部会では、日本大学歯学部 前野正夫学部長が「歯・口の健康づくりに関する中学校の取組みと生徒の意識について」という表題のもと、思春期の学校歯科保健推進委員会報告書から「生徒は自分の健康に関心はあるが、歯に関しては歯列不正、口臭、歯の色など対人関係を重視する傾向がある。思春期を考慮し歯科保健と全身の健康との結びづけをしながら指導する必要がある」との報告があった。

研究発表1は、東京都町田市立小山田中学校 三瓶法子主任養護教諭、澤 正宏学校歯科医より、「全校挙げての『給食後の歯みがき習慣』を実施し、行政も洗口場を増設した。学校歯科医の講話に際して生徒保健委員会との連携がうまく行っている。健康診断と同時に問題のある生徒には、プライバシーに配慮して個別に歯科衛生士の歯みがき指導が行われている」などの報告があった。

研究発表2は、岩手県一関市立大東中学校 皆上裕美子養護教諭、熊谷博伸学校歯科医より、「熊谷学校歯科医の担当する汲民小学校では『目指せ!歯の甲子園・日本一』をスローガンに、毎週水曜日に染め出しによる徹底した歯みがき指導を行い、染め出しの回数が増えるにつれむし歯は減少して文部科学大臣賞を受賞。その子らが進学した大東中学校でも生徒保健委員会でPRキャラクター「歯郎くん」を作成するなど、さまざまな保健活動を行い、また、学校歯科医作成の健康診断ソフトを使用して、健康診断と同時に『治療のお知らせ』が作成され、それを元に保健指導をするというシステムが構築されている。このような活動により大東中学校も文部科学大臣賞を受賞した」との報告があった。

両校とも学校歯科医と養護教諭との連携、健康診断後すぐの保健指導、生徒保健委員会の積極的な活動などそれぞれに工夫された活動がなされていた。また、学校歯科医が積極的に学校へ出向し保健指導に当たっているのもすばらしいと思った。健康診断だけではなく、保健委員会や歯科講話などわれわれも積極的に参加する必要があると改めて痛感した。

(広報委員会 委員 平川純教)

領域別研究協議会に参加して

第55回(平成28年度)全日本学校歯科保健優良校表彰被表彰校一覧

★本会ホームページで、優秀賞受賞校(園)の活動内容をご覧ください。

日学歯ホームページ▶TOPICS

■優秀賞(文部科学大臣賞)

滋賀県 大津市立膳所幼稚園
東京都 台東区立富士小学校
長野県 諏訪市立四賀小学校
岐阜県 白川町立白川北小学校
岩手県 二戸市立福岡中学校
大阪市 大阪市立大阪ビジネスフロンティア高等学校
和歌山県 和歌山県立きのかわ支援学校

■日本学校歯科医会会長賞

大阪市 大阪市立田川幼稚園
群馬県 高崎市立中央小学校
埼玉県 羽生市立新郷第一小学校
岐阜県 美濃加茂市立太田小学校

山形県 大蔵村立大蔵中学校
埼玉県 羽生市立西中学校
東京都 東京都立武蔵野北高等学校
東京都 東京都立大泉特別支援学校

■日本歯科医師会会長賞

宮城県 宮城教育大学附属幼稚園
北海道 札幌市立定山小学校
福島県 福島市立水保小学校
埼玉県 さいたま市立高砂小学校
長野県 駒ヶ根市立赤穂南小学校
名古屋市 名古屋市立白鳥小学校
徳島県 阿波市立柿原小学校
長崎県 佐世保市立江迎中学校
鹿児島県 鹿児島県立加治木高等学校

大阪府 大阪府立たまたがわ高等支援学校

■奨励賞

札幌市 麻生明星幼稚園
千葉県 学校法人桐葉学園加曾幼稚園
和歌山県 海南市立黒江幼稚園
岡山県 和気町立藤野幼稚園
山口県 下関国際高等学校付属幼稚園
香川県 高松市立三溪幼稚園
北海道 旭川市立神居東小学校
北海道 登別市立登別小学校
札幌市 札幌市立新琴似北小学校
札幌市 札幌市立東札幌小学校
青森県 八戸市立種差小学校
青森県 三沢市立三沢小学校

岩手県 二戸市立御返地小学校
宮城県 仙台市立桂小学校
山形県 遊佐町立藤岡小学校
福島県 会津若松市立大戸小学校
福島県 須賀川市立白方小学校
茨城県 石岡市立石岡小学校
茨城県 北茨城市立中妻小学校
茨城県 鉾田市立諏訪小学校
栃木県 宇都宮市立岡本北小学校
栃木県 宇都宮市立峰小学校
群馬県 高崎市立中居小学校
千葉県 鴨川市立長狭小学校
千葉県 流山市立長崎小学校
東京都 江東区立第二大島小学校
東京都 町田市立南成瀬小学校

子供たちの笑顔のために

一般社団法人東京都学校歯科医会 会長 川本 強



去る平成28年11月16日、17日に東京都で開催いたしました第80回全国学校歯科保健研究大会には、全国各地から1,600名を超える多くの皆様方のご参加を賜り成功裡に終了いたしました。また、一昨年の長野大会から引き継ぎ、第80回という節目の記念大会を挙行できましたことは、日本学校歯科医会をはじめとする多くの関係団体の方々のご指導とご協力の賜物であり、ここに改めて皆様に感謝申し上げます。

本大会は、『「生き抜く力」をはぐくむ歯・口の健康づくりの展開を目指して』をメインテーマに、『明るい笑顔で未来をつくる学校歯科保健活動』をサブテーマとして開催いたしました。家庭や学校が子供たちの笑顔で満ち溢れ、多難なこの現代社会を健康に生き抜く力を育てたいとの願いがそこにはあります。

開会式に際しましては、書家の金澤翔子さんによる力強い『笑』の文字の席上揮毫を、記念講演は『国際社会で生き抜く力』と題してジャーナリストの池上彰氏に、シンポジウムの基調講演は『学校歯科保健活動の過去・現在・未来』をテーマに安井利一先生（明海大学学長）にそれぞれお願いいたしました。夕方からの懇親会では、雅楽演奏家の東儀秀樹氏の演奏とトークに心打たれた方も多かったのではないのでしょうか。2日目の領域別研究協議会においても大変多くの方々にご参加いただきました。この大会を通してさまざまな学びを得る一助ができましたならば幸甚に存じます。

結びに、大会開催にあたりご支援を賜りました方々、またご参加いただいた多くの皆様方の今後のご活躍とご健勝をご祈念申し上げます、開催地を代表してご報告並びに御礼のご挨拶といたします。

次年度開催地（青森県）より

幼少期からつながる8020健康社会

一般社団法人青森県歯科医師会 会長 山口 勝弘



第80回という記念すべき東京大会が、卓越した構成と企画により盛会裏に終了致しました。学校歯科保健の充実を目指す機運や期待が高まった大会でした。感動と勇気を頂き感謝申し上げます。

第81回大会では青森市中心部を会場として、本年の10月26日（木）、27日（金）に開催することが決定致しました。副題は「学校歯科保健からはじまる8020健康社会」となりました。「8020健康社会」とは、地域住民の皆様方が生涯にわたり自分の力でものを食べ、健康で質の高い生活を送ることができる社会です。学校歯科保健の中での早期健康教育は、子供たちの健康を守りひいては地域住民の健康を守ることに繋がります。歯と口の健康づくりは、将来の歯の喪失リスクを軽減し背後にある生活習慣をも改善致します。幼少期のうちから長きにわたって口腔機能を維持し大切にすることにより、健康長寿に導く「8020健康社会」の実現が可能になると思います。

青森県は本州最北端にあり、三方を海に囲まれ八甲田山系で太平洋側と日本海側に分かれているため、県内でも気候や文化、風土に地域差がみられます。三内丸山遺跡や世界遺産の白神山地など美しい自然と独特の食文化が多くの来訪者を魅了して参りました。

この風光明媚な青森の地で、過去の大会を振り返り未来を展望しながら参加される皆様方に共鳴して頂けるような大会内容にしたいと考えています。多くのご参加をお待ちしております。

神奈川県 横須賀市立汐入小学校
神奈川県 横浜市立嶮山小学校
神奈川県 横浜市立斎藤分小学校
神奈川県 横浜市立豊岡小学校
神奈川県 横浜市立中尾小学校
山梨県 北杜市立高根北小学校
長野県 長野市立豊栄小学校
新潟県 上越市立豊原小学校
静岡県 湖西市立白須賀小学校
静岡県 御殿場市立御殿場南小学校
静岡県 静岡市立蒲原東小学校
愛知県 一宮市立大和南小学校
愛知県 稲山女子学園大学附属小学校
愛知県 豊橋市立野依小学校
名古屋市中 名古屋市中東山小学校
石川県 輪島市立町野小学校
石川県 小松市立椎松小学校
福井県 南越前町立湯尾小学校
滋賀県 大津市立晴嵐小学校
和歌山県 和歌山市立藤戸台小学校

京都府 木津川市立相楽小学校
京都府 京都市立葵小学校
京都府 京都市立醒泉小学校
大阪府 河内長野市立加賀田小学校
大阪府 豊中市立泉丘小学校
大阪府 寝屋川市立桜小学校
大阪府 大阪市立西船場小学校
兵庫県 淡路市立江井小学校
兵庫県 川西市立牧の台小学校
岡山県 赤磐市立仁美小学校
広島県 呉市立天応小学校
山口県 山口市立良城小学校
愛媛県 伊予市立由並小学校
愛媛県 宇和島市立宇和津小学校
愛媛県 松山市立浮穴小学校
福岡県 筑紫野市立吉木小学校
長崎県 佐世保市立相浦小学校高島分校
宮崎県 宮崎市立穆佐小学校
鹿児島県 鹿児島市立名山小学校
鹿児島県 曾於市立恒吉小学校

札幌市 札幌市立定山溪中学校
宮城県 気仙沼市立唐桑中学校
福島県 須賀川市立長沼中学校
茨城県 ひたちなか市立勝田第一中学校
栃木県 宇都宮市立清原中学校
栃木県 那須町立那須中学校
群馬県 高崎市立高松中学校
群馬県 高崎市立長野郷中学校
千葉県 千葉市立高洲第二中学校
埼玉県 加須市立加須北中学校
埼玉県 熊谷市立富士見中学校
東京都 荒川区立第三中学校
山梨県 甲府市立西中学校
新潟県 魚沼市立入広瀬中学校
名古屋市中 名古屋市中桜丘中学校
名古屋市中 名古屋市中笹島中学校
滋賀県 草津市立老上中学校
大阪府 大阪狭山市立狭山中学校
大阪府 むくのき学園大阪市立中島中学校
兵庫県 加古川市立平岡中学校

兵庫県 香美町立村岡中学校
岡山県 岡山県立岡山操山中学校
島根県 松江市立玉湯中学校
山口県 田布施町立田布施中学校
熊本県 熊本市立芳野中学校
鹿児島県 霧島市立舞鶴中学校
岩手県 岩手県立紫波総合高等学校
千葉県 千葉県立実籾高等学校
岐阜県 岐阜県立加茂高等学校
青森県 青森県立森田養護学校
宮城県 宮城教育大学附属特別支援学校
新潟県 小千谷市立総合支援学校
静岡県 静岡大学教育学部附属特別支援学校
岐阜県 岐阜県立損斐特別支援学校
富山県 富山大学人間発達科学部附属特別支援学校
長崎県 長崎大学教育学部附属特別支援学校
大分県 大分県立大分支援学校

平成28年度 全国学校保健・安全研究大会

第66回 全国学校歯科医協議会

北海道

■平成28年度 全国学校保健・安全研究大会

平成28年10月27日(木)・28日(金)、北海道札幌市の札幌コンベンションセンターで「生涯を通じて、心豊かにたくましく生きる力を育む健康教育の推進—生涯にわたり、自ら心身の健康を育み、安全を確保できる子供の育成—」という主題のもと、平成28年度全国学校保健・安全研究大会が開催された。

27日の開会式では、松野博一 文部科学大臣(代理)、横倉義武 日本学校保健会会長(代理)、柴田達夫 北海道教育委員会教育長等の挨拶の後、表彰式が行われ、48名の学校歯科医を含む学校医、学校薬剤師、団体等が学校保健・学校安全の功労者として文部科学大臣表彰を受けた。

記念講演では、こころとそだちのクリニックむすびめ 田中康雄院長が「子供たちの学校生活を護るための校内連携と他職種連携～発達障害、被虐待経験をもつ子供たちを中心に～」という演題で講演された。

28日は課題別研究協議会に入り、10課題のうち第5課題(札幌コンベンションセンター2F小ホール)の「歯・口の健康づくり」に参加した。「生涯にわたる健康づくりを実践するためには、自分の歯や口の健康に関心をもち、自分の課題を把握し、解決していくことができる資質や能力を育てることが大切である。そのため、歯・口の健康づくりを目指した学校歯科保健活動の進め方について協議する」との趣旨で、講師に明海大学 安井利一学長、指導助言者(コーディネーター)として東京都教育庁地域教育支援部 三ツ木浩樹科保健担当課長のもと研究発表が行われた。①秋田県秋田市立明德小学校 米川尚子養護教諭が、「歯科健康診断の効果的な実施と結果等を活用した健康教育の充実について」述べ、様々な歯科保健活動の取組により、児童・保護者・教職員の歯に関する健康意識の高まりが報告された。②沖縄県立宮古特別支援学校 金城香澄教諭が、「本校における歯科保健の取組について」述べ、幼稚部から高等部までの幼児児童生徒の障害の程度や発達段階を踏まえた特別支援学校ならではの活動報告がなされた。あわせて、特徴でもある寄宿舎での取組についても発表された。③北海道羅臼町立春松中学校 高田真弓養護教諭が、「地域とともに 生涯にわたる歯・口の健康づくり」について述べた。小規模なコミュニティーの特徴を活かし、小中高の養護教諭等教育関係者に加え、町の保健衛生部局に所属する関係者が町全体で連携し、幼児期から成人期

に至るまでの一貫した歯・口の健康づくりにおける中学校の取組が報告された。

最後に、安井利一先生による「生涯にわたる健康管理の基礎となる歯・口の健康づくりの進め方—自分の健康管理能力を身に付ける歯と口の健康教育の推進—」と題する講義が行われた。

平成28年度 学校保健の功労に関する 文部科学大臣表彰 (学校歯科医 48名)

都道府県	氏名
北海道	大塚 陽生
北海道	笠間 茂
北海道	高橋 康則
青森県	長内 由美
岩手県	三澤 芳光
岩手県	菅野 悦哉
宮城県	亘理 孝雄
宮城県	大宮 一也
山形県	伊藤 一晴
福島県	古張 武
福島県	小汲三代太
茨城県	須田 晃
栃木県	関 謙一
群馬県	山口 保男
埼玉県	戸谷 弘昌
千葉県	黒田 勝
東京都	武井 秀光
神奈川県	藤巻 則治
新潟県	吉岡 弘善
新潟県	古田島耕三
石川県	温井 寛
福井県	藤井 了湖
山梨県	山内 邦生
岐阜県	荻谷 至朗
愛知県	松浦 和典
滋賀県	南 英世
京都府	本多 雅男
大阪府	小出 雅彦
大阪府	元島 泉
兵庫県	岡田 誠一
奈良県	熨斗 伸光
和歌山県	武田 寿子
島根県	岡本 正文
広島県	門田誠四郎
山口県	河邊 智之
徳島県	榎 雄三
香川県	多田 篤司
高知県	乾 正明
福岡県	永江 正廣
福岡県	須ノ内茂子
佐賀県	諸隈 昭夫
佐賀県	高森 紘二
佐賀県	寺谷 陽
長崎県	渡邊 富夫
熊本県	田代 正博
宮崎県	井上 陽一
鹿児島県	横山 稔
沖縄県	勝連 敏男

(敬称略)



■第66回全国学校歯科医協議会

第66回全国学校歯科医協議会は、10月27日(木) 16:00より北海道札幌市京王プラザホテル札幌で開催された。北海道歯科医師会 藤田一雄会長、日本学校歯科医会 丸山進一郎会長の挨拶および来賓祝辞の後、文部科学大臣表彰受賞者が紹介された。

特別講演では、北海道歯科医師会 青木秀志常務理事の座長のもと、日本学校歯科医会 丸山進一郎会長が「学校歯科保健の魅力—これからの学校歯科医—」、北海道医療大学歯学部口腔構造・機能発育学系小児歯科学分野 齊藤正人教授が「最近増加している小児口腔の問題点と小児歯科臨床」という演題で講演された。

講演 I

日学歯は平成21年度より「学校歯科医生涯研修制度」を開始し、開催された基礎研修会の受講者は2万名を超えたが、受講者からは「堅苦しく、つまらない」との声があり、また加盟団体からは「魅力ある内容にしてほしい、時間を短縮してほしい、DVD研修にできないか」等の要望が寄せられた。そこで日学歯では「あるべき学校歯科医像」の全国統一の質の担保を目的とした研修制度の見直しを検討している。丸山会長は、12歳児のDMFTは0.90本(平成27年度)となり、子供たちのむし歯は軽症化しているが、生活習慣が大人化(深夜化、ストレス大、食生活の乱れ等)しているため歯肉炎が顕著に増加している。また生活習慣や育児環境の変化から、口呼吸の問題や、咀嚼、嚥下、発音、表情などの口腔周囲の機能の健全な発達が危惧されるようになった。さらに食育についても「嚙ミング30」運動など学校歯科医が関わることでできる活動があると述べた。会長は自身の豊富な体験から、学校で行う健康診断は教育が目的であり、COもGOも教育素材である。学校へ行って、子供たちと触れ合うことが学校歯科保健の魅力である、と結んだ。歯科はCUREからCARE そして今CULTUREへ!!

講演 II

近年の小児う蝕の著しい減少は、学校歯科医の努力とともに、少子化による小児の健康や容姿に対する保護者の関心の高まりが原因として挙げられる。それにともない、歯並びや歯の色調異常、形態異常、口臭、顎関節の異常など、う蝕以外の様々な口腔の問題点に関



する保護者からの相談が増えており、また小児の歯の外傷が増加している。齊藤教授は、歯の色調異常では黒色色素産生菌によるBlack stainについて、形態異常では第一大臼歯と切歯に限局して発症する原因不明のエナメル質形成不全であるMIH (Molar Incisor Hypomineralization) の原因を探る研究について述べられた。歯の外傷では、特に外傷後の幼弱永久歯の歯内療法について解説され、難症例への対処法は非常に参考になった。最後に発達障害患者に対する歯科治療上の注意点を挙げ、特に服薬状況によって局所麻酔薬の選定が必要になることを強調された。

平成29年度全国学校保健・安全研究大会は、平成29年11月16日(木)・17日(金)に三重県津市の三重県総合文化センターにて、第67回全国学校歯科医協議会は、11月16日(木)に三重県総合文化センターにて、同時開催される。(広報委員会 委員 村上 淳一)